

7-9-5 クモ類

1. 現況把握

(1) 調査概要

クモ類に係る調査内容は、表 7-9-5.1 に示すとおりである。

表 7-9-5.1 クモ類に係る調査内容

調査項目	調査方法	調査地点・エリア	調査頻度・時期等
クモ類	任意観察法	対象事業実施区域及びその周辺 200m	3 季/年 (初夏・夏・秋季)



クモ類：任意観察法

(2) 調査地点

クモ類に係る調査地点は、図 7-9-5.1 に示すとおりである。

(3) 調査時期

クモ類に係る調査時期は、表 7-9-5.2 に示すとおりである。

表 7-9-5.2 クモ類に係る調査時期

調査項目	調査方法	調査頻度・時期等	調査実施日
クモ類	任意観察法	3 季/年	初夏季：令和 3 年 6 月 7～8 日 夏季：令和 3 年 8 月 30～31 日 秋季：令和 3 年 10 月 7～8 日

(4) 重要な種の状況

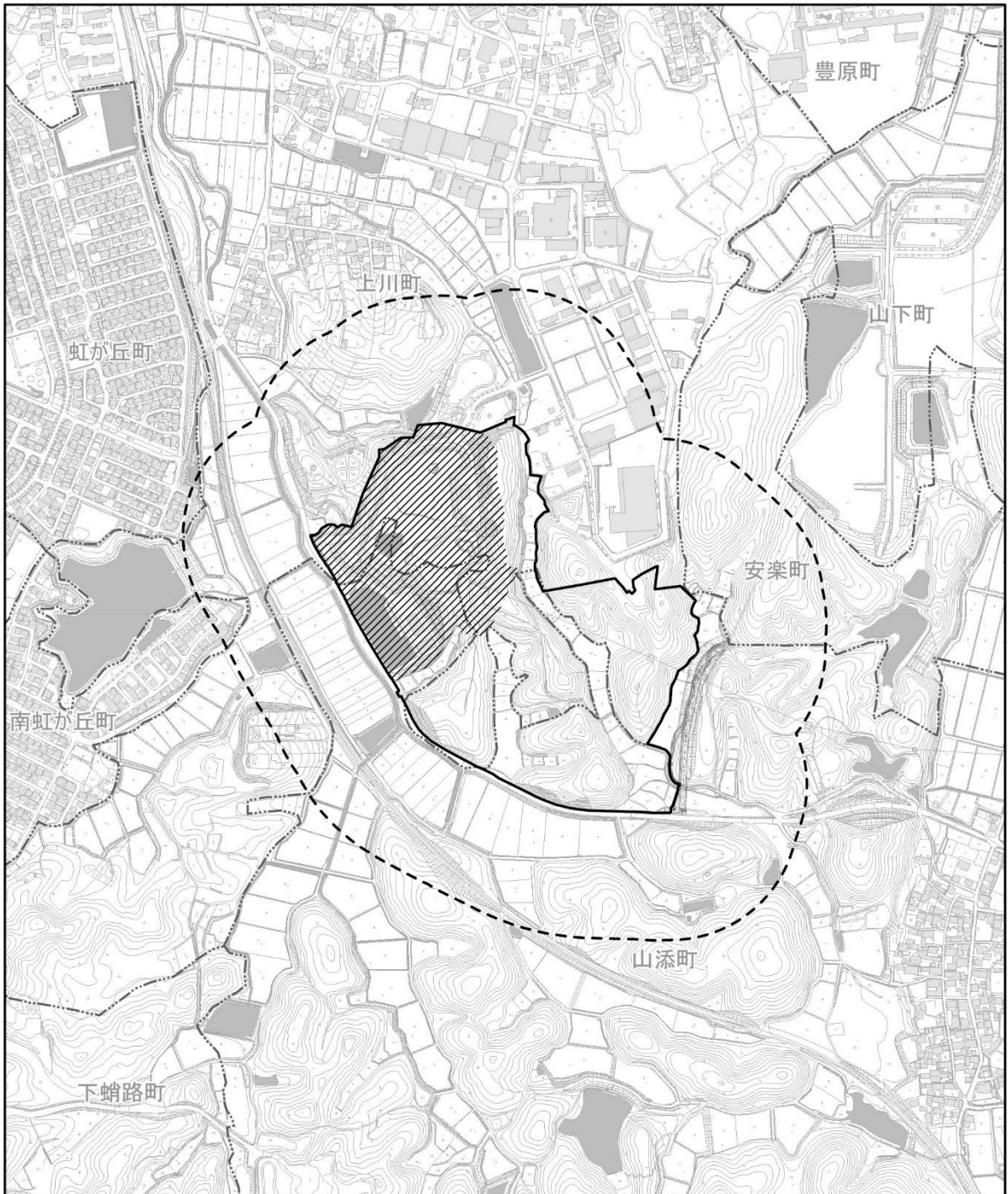
重要な種の選定基準は、「7-9-1 哺乳類」と同じとした。

(5) 注目すべき生息地

注目すべき生息地の選定基準は、「7-9-1 哺乳類」と同じとした。

(6) 外来種の状況

外来種の選定基準は、「7-9-1 哺乳類」と同じとした。




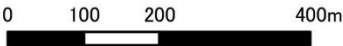
<p>凡例</p> <p>//// 現最終処分場区域</p> <p>▭ 対象事業実施区域</p> <p>--- 対象事業実施区域周辺200m</p> <p>----- 町界</p> <p><small>この地図は、松阪市提供の地形図データ及び「平成27年国勢調査(町丁・字等別境界データ)」(総務省)を使用し、株式会社日本技術開発が編集・加工したものである。</small></p>	<p>S = 1:10,000</p>  <p>0 100 200 400m</p> 
--	---

図 7-9-5.1 クモ類調査地点図 (対象事業実施区域周辺 200m)

2. 調査結果

(1) クモ類の生息状況

対象事業実施区域及びその周辺で確認されたクモ類は、表 7-9-5.4(1)(2)に示すように 1 目 23 科 85 種であった。このうち、重要な種に該当するのは、ワスレナグモ、キノボリトタテグモ、コガネグモの 3 種であり、外来種は確認されなかった。

対象地域は、広域的に見ると櫛田川左岸に広がる丘陵・農耕地域である。対象事業実施区域には落葉広葉樹林（コナラ林）や竹林、スギ・ヒノキ植林などの山林が広く分布し、その周辺には水田耕作地、公園・駐車場、造成地（現最終処分場）など人工改変地が見られる。

生息状況を見ると、山林の山道周辺ではキノボリトタテグモ、オナガグモ、アオオニグモ、ワキグロサツマノミダマシなど林内を好む種が生息する。現最終処分場内などに広がる草地では、地上性のワスレナグモ、ウツキコモリグモをはじめ、造網性のコガネグモ、ナガコガネグモ、ドヨウオニグモなどが生息する。また、湿地化した水田跡地や水田耕作地周辺の畔周辺の草地ではトガリアシナガグモ、イナダハリゲコモリグモ、スジブトハシリグモなどが見られた。

クモ類の確認状況を表 7-9-5.3 に示す。

表 7-9-5.3 クモ類の季節別・区域別確認状況

目名	科別	調査時期			対象事業 実施区域内	対象事業 実施区域外
		初夏季	夏季	秋季		
		種類数	種類数	種類数	種類数	種類数
クモ目	ジグモ科	1	1	1	2	
	トタテグモ科			1	1	
	チリグモ科		1	1		1
	ウズグモ科	1				1
	ヒメグモ科	8	1	4	5	9
	サラグモ科	2	1	3	2	4
	アシナガグモ科	7	8	5	10	5
	コガネグモ科	5	5	9	12	8
	コモリグモ科	3	2	4	3	3
	キンダグモ科	2	3	3	3	2
	ササグモ科	1		2	2	1
	シボグモ科	1			1	
	タナグモ科		1	1	2	2
	ウシオグモ科		1	1		1
	ハグモ科	1				1
	ウエムラグモ科		1		1	
	フクログモ科			2	2	1
	ネコグモ科			1	1	
	ワシグモ科	1	1	1	2	
	アシダカグモ科		1	1	1	
	エビグモ科	2		2	3	1
	カニグモ科	6	3	3	7	2
	ハエトリグモ科	6	4	8	7	8
合計		47	34	53	67	50

表 7-9-5.4(1) クモ類の確認種一覧表

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期			
					初夏季	夏季	秋季	
1	クモ目	ジグモ科	ジグモ	<i>Atypus karschii</i>	●	●		
2			★ワスレナグモ	<i>Calomnata signata</i>			●	
3		トタテグモ科	★キノボリタテグモ	<i>Conothele fragaria</i>			●	
4			ヒラタグモ	<i>Uroctea compactilis</i>		●	●	
5		ウスグモ科	カタハリウズグモ	<i>Octonoba sybotides</i>	●			
6		ヒメグモ科	アシプトヒメグモ	<i>Anelosimus crassipes</i>	●			
7			シロカネイソウロウグモ	<i>Argyrodes bonadea</i>	●		●	
8			オナガグモ	<i>Ariannes cylindrogaster</i>			●	
9			フタオイソウロウグモ	<i>Neospintharus fur</i>	●			
10			ツリガネヒメグモ	<i>Parasteatoda angulithorax</i>	●			
11			カグヤヒメグモ	<i>Parasteatoda culicivola</i>	●	●	●	
12			ニホンヒメグモ	<i>Parasteatoda japonica</i>			●	
13			オオヒメグモ	<i>Parasteatoda tepidarium</i>	●			
—			Parasteatoda属の一種	<i>Parasteatoda</i> sp.			●	
14			カニミジグモ	<i>Phycosoma mustelinum</i>	●			
15			ボカシミジグモ	<i>Yaginumena castrata</i>	●			
16			サラグモ科	ノギリヒザグモ	<i>Erigone prominens</i>			●
17				クロナンキングモ	<i>Hylyphantes graminicola</i>			●
18				チビアカサラグモ	<i>Nematogmus sanguinolentus</i>	●		
19				セスジアカムネグモ	<i>Ummeliata insecticeps</i>		●	●
—		サラグモ科の一種		Linyphiidae Gen. sp.	●			
20		アシナガグモ科	チュウガダシロカネグモ	<i>Leucauge blanda</i>	●	●	●	
21			オオシロカネグモ	<i>Leucauge magnifica</i>	●		●	
22			コシロカネグモ	<i>Leucauge subblanda</i>	●	●		
23			キララシロカネグモ	<i>Leucauge subgemma</i>	●	●		
—			Leucauge属の一種	<i>Leucauge</i> sp.		●	●	
24			ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i>		●	●	
25			ヒメアシナガグモ	<i>Pachygnatha tenera</i>		●		
26			トガリアシナガグモ	<i>Tetragnatha caudicula</i>		●	●	
27	ヤサガタアシナガグモ		<i>Tetragnatha maxillosa</i>	●	●			
28	アシナガグモ		<i>Tetragnatha praedonia</i>	●	●	●		
29	ウロコアシナガグモ		<i>Tetragnatha squamata</i>	●				
—	Tetragnatha属の一種	<i>Tetragnatha</i> sp.	●		●			
30	コガネグモ科	ハツグモ	<i>Acusilas coccineus</i>		●			
31		アオオニグモ	<i>Araneus pentagrammicus</i>			●		
32		カラオニグモ	<i>Araneus tsurusakii</i>	●				
33		★コガネグモ	<i>Argiope amoena</i>	●		●		
34		ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichi</i>		●			
35		コガタコガネグモ	<i>Argiope minuta</i>			●		
—		Argiope属の一種	<i>Argiope</i> sp.		●	●		
36		ギンメッキゴミグモ	<i>Cyclosa argenteoalba</i>			●		
37		ゴミグモ	<i>Cyclosa octotuberculata</i>	●	●	●		
38		シマゴミグモ	<i>Cyclosa omonaga</i>			●		
—		Cyclosa属の一種	<i>Cyclosa</i> sp.			●		
39		Larinia属の一種	<i>Larinia</i> sp.			●		
40		ドヨウオニグモ	<i>Neoscona adianta</i>	●	●	●		
41		ワキグロサツマミダマシ	<i>Neoscona melloteei</i>		●	●		
42		サツマミダマシ	<i>Neoscona scylloides</i>	●				
43	コモリグモ科	ハラクロコモリグモ	<i>Lycosa coelestis</i>			●		
44		イナダハリグモ	<i>Pardosa agraria</i>	●				
45		ウツキコモリグモ	<i>Pardosa astrigera</i>		●	●		
46		キクツキコモリグモ	<i>Pardosa pseudoannulata</i>	●	●	●		
47	キバラコモリグモ	<i>Pirata subpiraticus</i>	●		●			
48	キシダグモ科	スジプトハシリグモ	<i>Dolomedes saganus</i>	●	●	●		
49		スジアカハシリグモ	<i>Dolomedes silvicola</i>	●	●	●		
50		イオウイロハシリグモ	<i>Dolomedes sulfureus</i>		●	●		
—		Dolomedes属の一種	<i>Dolomedes</i> sp.	●				
51	ササグモ科	クリチャササグモ	<i>Oxyopes licenti</i>			●		
52		ササグモ	<i>Oxyopes sertatus</i>	●		●		
—		Oxyopes属の一種	<i>Oxyopes</i> sp.	●				
53	シボグモ科	シボグモ	<i>Anahita fauna</i>	●				
54	タナグモ科	クサグモ	<i>Agelena silvatica</i>		●			
55		コクサグモ	<i>Allagelena opulenta</i>			●		
—		タナグモ科の一種	Agelenidae Gen. sp.	●				
56	ウシオグモ科	クロガケジグモ	<i>Badumna insignis</i>		●	●		
57	ハグモ科	ヒナハグモ	<i>Dictyna follicola</i>	●				
58	ウエムラグモ科	イタチグモ	<i>Itatsina praticola</i>		●			
59	フクログモ科	Cheiracanthium属の一種	<i>Cheiracanthium</i> sp.			●		
60		Clubiona属の一種	<i>Clubiona</i> sp.			●		

表 7-9-5.4(2) クモ類の確認種一覧表

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期			
					初夏季	夏季	秋季	
61	クモ目	ネコグモ科	ネコグモ	<i>Trachelas japonicus</i>			●	
62		ワシグモ科	メキリグモ	<i>Gnaphosa kompirensis</i>	●			
—			ワシグモ科の一種	Gnaphosidae Gen. sp.		●	●	
63		アシダカグモ科	コアシダカグモ	<i>Sinopoda forcipata</i>			●	
—			Sinopoda属の一種	<i>Sinopoda</i> sp.		●		
64		エビグモ科	アサヒエビグモ	<i>Philodromus subaureolus</i>	●		●	
65			ヤマトヤドカリグモ	<i>Thanatus nipponicus</i>			●	
66			シヤコグモ	<i>Tibellus japonicus</i>	●			
67		カニグモ科	コハナグモ	<i>Daea subdola</i>	●		●	
68			ハナグモ	<i>Ebrechtella tricuspidata</i>	●	●	●	
69			ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i>	●	●	●	
70			ニッポンオチバカニグモ	<i>Oxyptila nipponica</i>	●			
71			アズチグモ	<i>Thomisus labefactus</i>	●			
72			トラフカニグモ	<i>Tmarus piger</i>		●		
73			ヤミイロカニグモ	<i>Xysticus croceus</i>	●			
—			Xysticus属の一種	<i>Xysticus</i> sp.		●	●	
74		ハエトリグモ科	ネコハエトリ	<i>Carrhotus xanthogramma</i>		●	●	
75			マミジロハエトリ	<i>Evarcha albaria</i>	●	●	●	
76			オスクロハエトリ	<i>Mendoza canestrinii</i>			●	
—			Mendoza属の一種	<i>Mendoza</i> sp.	●			
77			ヤガタアリグモ	<i>Myrmarachne elongata</i>		●	●	
78			ヤサアリグモ	<i>Myrmarachne inermichelis</i>	●			
79			アリグモ	<i>Myrmarachne japonica</i>	●			
—			Myrmarachne属の一種	<i>Myrmarachne</i> sp.			●	
80			チャイロアサヒハエトリ	<i>Phintella abnormis</i>	●			
81			メガネアサヒハエトリ	<i>Phintella linea</i>			●	
82			デーニツハエトリ	<i>Plexippoides doenitzi</i>		●	●	
83			キレフハエトリ	<i>Sibianor pullus</i>			●	
84			アオオビハエトリ	<i>Siler vittatus</i>	●		●	
85			ムツバハエトリ	<i>Yaginumanis sexdentatus</i>	●			
確認種数:1目23科85種					46種	35種	54種	

注1 ●:確認 空白:未確認 ★:重要な種

注2 種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度版」(国土交通省,令和3年)に準拠した。

(2) 重要な種及び注目すべき生息地

重要な種にはワスレナグモ、キノボリトタテグモ、コガネグモの3種が該当する。なお、現地調査で確認されたドヨウオニグモについて、三重県レッドデータブックによれば、「三重県レッドデータブック 2005 動物」では掲載種であったが、直近の知見として絶滅のリスクは低懸念と判定され除外種とされていることから、今回は重要な種としては扱わないこととした。また、注目すべき生息地は確認されなかった。

重要な種の確認位置を図 7-9-5.2 に、確認状況を表 7-9-5.5～表 7-9-5.8 に示す。

表 7-9-5.5 クモ類の重要な種の選定結果

No.	科名	種名	重要な種の選定基準				
			①	②	③	④	⑤
1	ジグモ科	ワスレナグモ			準絶滅危惧	準絶滅危惧	
2	トタテグモ科	キノボリトタテグモ			準絶滅危惧	準絶滅危惧	
3	コガネグモ科	コガネグモ				準絶滅危惧	
確認種数:3科3種			-	-	-	-	-

注1 種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度版」(国土交通省,令和3年)に準拠した。

注2 重要な種の選定基準

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)
「三重県文化財保護条例」(昭和32年12月28日、条例第72号)
「松阪市文化財保護条例」(平成17年1月1日、条例第256号)
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年6月5日、法律第75号)
- ③ 「絶滅のおそれのある野生動物の種のリスト」(令和2年3月27日改訂、環境省)
準絶滅危惧:現時点での絶滅の危険性は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ④ 「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生動物～(2015年改訂版)」
(平成27年3月、三重県農林水産部みどり共生推進課)
準絶滅危惧:生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」に移行する要素を持つ種
地域個体群:絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「三重県自然環境保全条例」(平成15年3月17日、条例第2号)

表 7-9-5.6 クモ類の重要な種の季節別、区域別の確認状況

No.	科名	種名	調査時期			区域内外	
			初夏	夏	秋	対象事業実施区域内	対象事業実施区域外
1	ジグモ科	ワスレナグモ			1	1	
2	トタテグモ科	キノボリトタテグモ			2	2	
3	コガネグモ科	コガネグモ	3		1	2	2
確認個体数			3個体		4個体	5個体	2個体

注 数字は確認個体数、空白は確認されなかったことを示す。

表 7-9-5.7 重要な種の確認状況

No.	種名	確認時期	確認場所	確認状況
1-1	ワスレナグモ	秋季	内	現最終処分場内の植栽木の根元で1個体を確認。巣を確認。
2-1	キノボリトタテグモ	秋季	内	対象事業実施区域の落葉広葉樹林(幹)で1個体を確認。巣を確認。
2-2		秋季	内	対象事業実施区域の落葉広葉樹林(幹)で1個体を確認。古巣を確認。
3-1	コガネグモ	初夏	外	対象事業実施区域外南西側の水路で1個体を確認。
3-2		初夏	内	対象事業実施区域の谷津田のササ草地で1個体を確認。
3-3		初夏	内	対象事業実施区域の落葉広葉樹林の林縁部で1個体を確認。
3-4		秋	外	対象事業実施区域外北側の林縁部で1個体を確認。

注 内:対象事業実施区域内 外:対象事業実施区域外

表 7-9-5.8 重要な種の生息個体（巣）と主要な生息環境

	<p>環境保全の観点から、重要種の確認位置は表示しない。</p>
<p>ワスレナグモ(巣)</p>	<p>主な確認環境</p>
	<p>環境保全の観点から、重要種の確認位置は表示しない。</p>
<p>キノボリタテグモ(古巣)</p>	<p>主な確認環境</p>
	<p>環境保全の観点から、重要種の確認位置は表示しない。</p>
<p>コガネグモ</p>	<p>主な確認環境</p>

(3) 外来種の確認状況

外来生物法及び外来種リストに該当する種は確認されなかった。

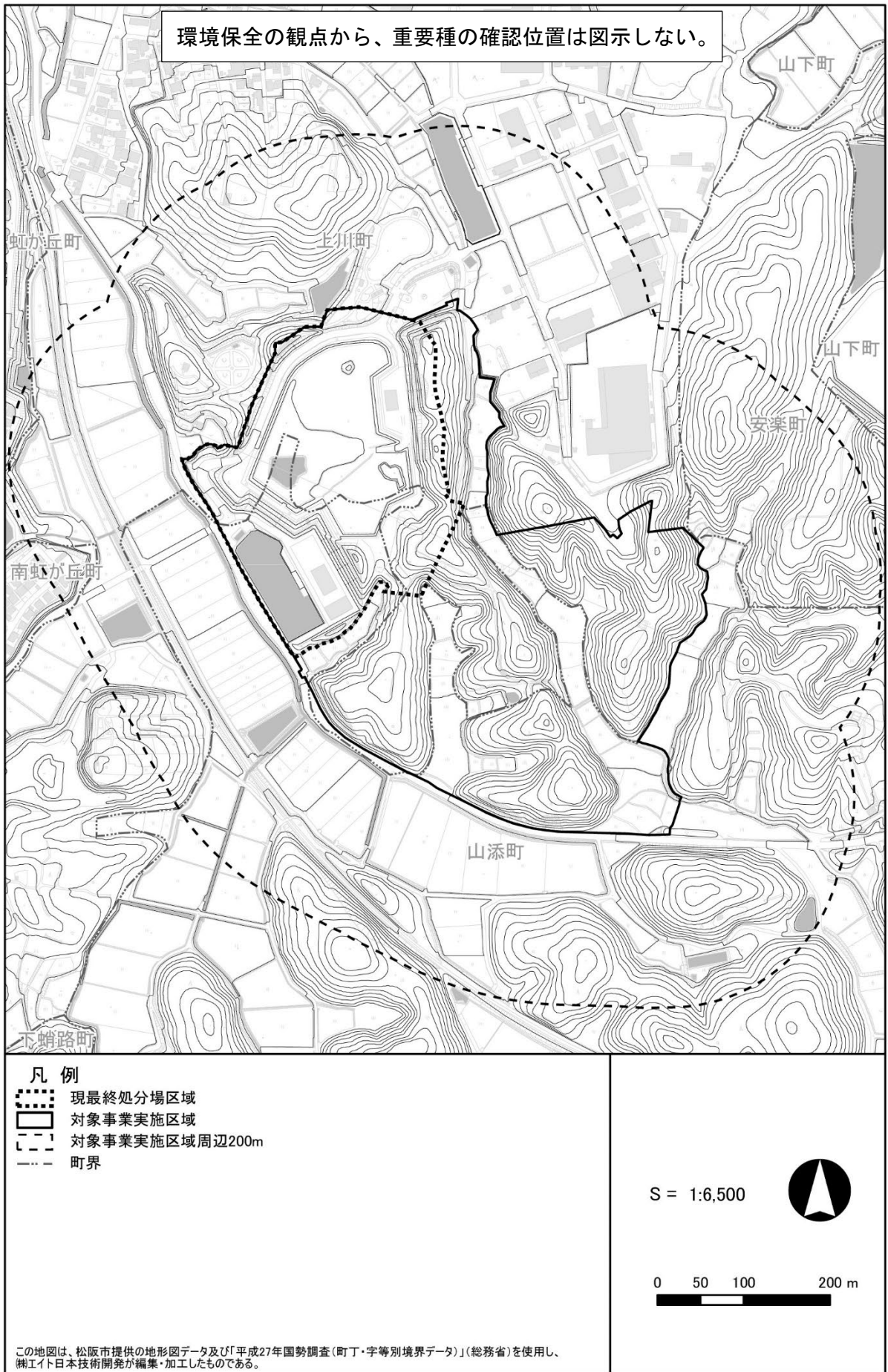


図 7-9-5.2 クモ類の重要な種確認位置図

3. 予測・環境保全措置及び評価

クモ類に係る予測概要は表 7-9-5.9 に示すとおりである。

表 7-9-5.9 クモ類に係る予測手法

影響要因	予測項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	クモ類相及びそれらの生息環境	工事の実施による影響	予測対象種の生息環境や生息地と事業計画を重ね合わせ、その改変程度を整理し、予測対象種の生息に及ぼす影響の程度を事例の引用若しくは解析により、定性的に予測	調査地域と同様の地域	工事による影響が最大となる時期
土地又は工作物の存在及び供用	重要な種及び注目すべき生息地	土地又は工作物の存在及び供用による影響			事業活動が定常状態となる時期

(1) 予測内容

予測項目は、注目すべき生息地は確認されなかったことから、以下の項目とした。

- クモ類（クモ類相）及びそれらの生息環境への影響
- 重要な種への影響

(2) 予測対象時期

予測対象時期は、工事の実施は工事による影響が最大となる時期とし、土地又は工作物の存在及び供用は事業活動が定常状態となる時期とした。

(3) 予測地域

現地調査の範囲と同様に対象事業実施区域及びその周辺約 200m の範囲とした。

(4) 予測方法

予測方法・内容は、表 7-9-5.10 に示すとおりとした。

表 7-9-5.10 予測方法・内容

時 期	予測方法・内容
工事の実施	① 樹木の伐採・処理、建設機械による土地造成による影響 樹木伐採や建設機械の稼働による土地造成により、谷津田や山林の一部が消失する。クモ類（クモ類相）に与える直接的な影響の度合いについて、土地利用計画との重ね合わせにより、その改変の程度などについて定性的に予測した。
土地又は工作物の存在及び供用	① 工作物（処分用地、調整池）の存在による影響 処分場となる造成地や調整池のような工作物の存在による植生及び土地利用の出現（供用）について、クモ類（クモ類相）に与える直接的な影響の度合いについて、土地利用計画との重ね合わせにより、その改変の程度などについて定性的に予測した。

(5) 予測結果

① クモ類及びそれらの生息環境への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

対象事業実施区域の主要環境の改変状況を見ると、山林（コナラ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒノキ植林）は 10.07ha から 5.45ha に減少し、谷津田は 2.83ha から 0.56ha に減少する。

工事着工に伴い樹木の伐採、建設機械による土地造成により、山林及び谷津田の生息環境は改変され、一部の個体に影響が生じるものと考えられる。特に大半が消失する谷津田ではトガリアシナガグモ、イナダハリゲコモリグモなど草本類や低木類に造網する種に影響が及ぶものと考えられる。

供用後は、対象事業実施区域内では残置森林として 5.45ha の山林が残存することから、樹林性～林縁性のクモ類は生息でき、処分用地、調整池などの存在による影響は小さいものと考えられる。また、谷津田の消失に伴う代替環境として、対象事業実施区域東側の谷津田（谷津田④）を保全エリアとして確保する。このエリアは処分用地、調整池などの存在によるクモ類への影響はないものと考えられる。

② 重要な種への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

重要な種に該当するクモ類の工事中及び供用後の予測結果を表 7-9-5.11 に示すとともに、対象事業実施区域との重ね合わせ図を図 7-9-5.3 に示す。

ア. ワスレナグモ

【一般生態など】

本州東北以南、四国、九州に分布し、県内では四日市市、伊賀市、伊勢市、亀山市などで記録がある。里山から市街地にかけて幅広い環境で見られ、建物の土台付近、草地、畑地、公園などの地中に穴を掘って住居を作る。入り口に扉は付けず、近づく昆虫類などを捕食する。

参考：「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（2015 年改訂版）」（平成 27 年 3 月、三重県農林水産部みどり共生推進課）

また、「みえ生物誌-クモ類」（平成 30 年 12 月、三重自然誌の会）によれば、松阪市での過去の確認記録として、1975 年から 2015 年の間に合計 2 例が記録されている。なお、対象事業実施区域が位置する上川町、山添町、安楽町では確認記録はない。

【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

現最終処分場内の植栽木付近（1 箇所）から確認された。確認地点周辺は工事の実施による影響は受けなため、生息環境は現状のままである。よって、工事着工に伴い樹木の伐採、建設機械による土地造成による影響はないものと考えられる。

供用後も確認地点周辺は現状のままであり、処分用地、調整池などの存在による影響はないものと考えられる。

イ. キノボリトタテグモ

【一般生態など】

本州（東北地方除く）、四国、九州、南西諸島に分布し、県内ではほぼ全域で記録がある。日光の直射しない岩上や、クス、マツ、スギなどの樹皮上に片開き戸の住居をつくる。社寺林など古木に営巣することが多い。

参考：「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（2015年改訂版）」（平成27年3月、三重県農林水産部みどり共生推進課）

また、「みえ生物誌-クモ類」（平成30年12月、三重自然誌の会）によれば、松阪市での過去の確認記録として、1975年から2013年の間に合計で13例が記録されている。なお、対象事業実施区域が位置する上川町、山添町、安楽町では確認記録はない。

【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

対象事業実施区域から計2箇所を確認された。このうち、1箇所は工事の実施により生息環境は改変されるが、他1箇所の生息環境は現状のままである。よって、工事着工に伴い樹木の伐採、建設機械による土地造成による影響は小さいものと考えられる。

供用後も確認地点のうち1カ所は現状のままであり、処分用地、調整池などの存在による影響はないものと考えられる。

ウ. コガネグモ

【一般生態など】

本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内ではほぼ全域に分布する。市街地周辺での減少が著しい。草や木の枝の間、軒下などに大きな垂直円網を張る造網種である。

参考：「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（2015年改訂版）」（平成27年3月、三重県農林水産部みどり共生推進課）

また、「みえ生物誌-クモ類」（平成30年12月、三重自然誌の会）によれば、松阪市での過去の確認記録として、1984年から2013年の間に合計で13例が記録されている。なお、対象事業実施区域が位置する上川町、山添町、安楽町では確認記録はない。

【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

対象事業実施区域内外から計4箇所を確認された。このうち、1箇所は工事の実施により生息環境は改変されるが、他3箇所の生息環境は現状のままである。よって、工事着工に伴い樹木の伐採、建設機械による土地造成による影響は小さいものと考えられる。

供用後も確認地点3箇所は現状のままであり、処分用地、調整池などの存在による影響はないものと考えられる。

表 7-9-5.11 クモ類の重要な種の予測結果概要

No.	種名	確認時期	確認場所	確認状況	予測結果概要
1-1	ワスレナグモ	秋季	内	現最終処分場内の植栽木の根元で1個体を確認。巣を確認。	工事中:影響は小さい 供用後:影響は小さい
2-1	キノボリタテグモ	秋季	内	対象事業実施区域の落葉広葉樹林(幹)で1個体を確認。巣を確認。	
2-2		秋季	内	対象事業実施区域の落葉広葉樹林(幹)で1個体を確認。古巣を確認。	工事中:影響は小さい 供用後:影響は小さい
3-1	コガネグモ	初夏	外	対象事業実施区域外南西側の水路で1個体を確認。	
3-2		初夏	内	対象事業実施区域の谷津田のササ草で1個体を確認。	工事中:影響は小さい 供用後:影響は小さい
3-3		初夏	内	対象事業実施区域の落葉広葉樹林の林縁部で1個体を確認。	
3-4		秋季	外	対象事業実施区域外北側の林縁部で1個体を確認。	

注 内:対象事業実施区域内 外:対象事業実施区域外

(6) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

表 7-9-5.12(1) クモ類に係る環境保全措置①の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	事業実施に伴い影響が生じる谷津田の消失に伴う代替環境として保全エリアを確保し、草地の生息環境を保全する。
環境保全措置の効果	保全エリアを確保することにより、クモ類の保全を図ることができる。
検討結果 (不確実性)	消失する谷津田の代替環境を確保することで、直接的な影響を軽減できるため実施する。

表 7-9-5.12(2) クモ類に係る環境保全措置②の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	道路法面工事における土砂流出防止策及び早期緑化を図り、谷津田の生息環境を保全する。
環境保全措置の効果	工事時の土砂流出防止策(フトン籠の設置)や早期緑化を図ることで谷津田への土砂流出を防止し、生息環境への影響を軽減できる。
検討結果 (不確実性)	生息個体及び生息環境への影響を軽減できるため実施する。

表 7-9-5.12(3) クモ類に係る環境保全措置③の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	工事関係者への環境保全の啓発
環境保全措置の効果	クモ類の生息環境としての谷津田の保全意識を共有できる。
検討結果 (不確実性)	工事に近接地となる谷津田の保全に関わる注意喚起を行うことで、クモ類の生息環境の保全につながる。

(7) 評価結果

保全エリアとして谷津田の確保、残存森林内に多様な植物群落を保全する。また、環境保全措置として、残存する谷津田への土砂流出防止・早期緑化を図りクモ類の生息環境を形成する。よって、クモ類の生息環境への影響は、事業者の実施可能な範囲で、回避又は低減が図られるものと評価される。

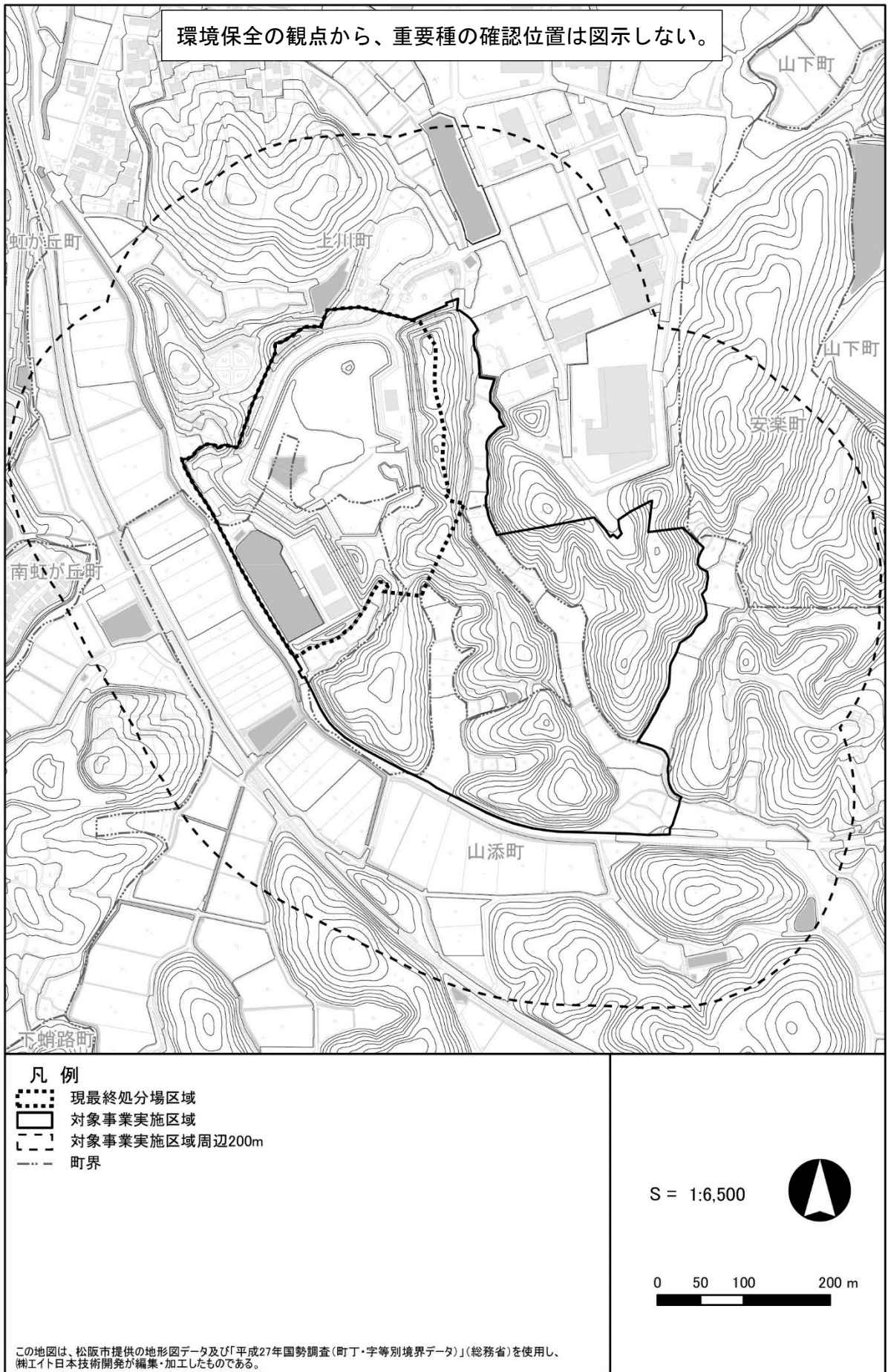


図 7-9-5.3 クモ類の重要な種と事業計画の重ね合わせ図

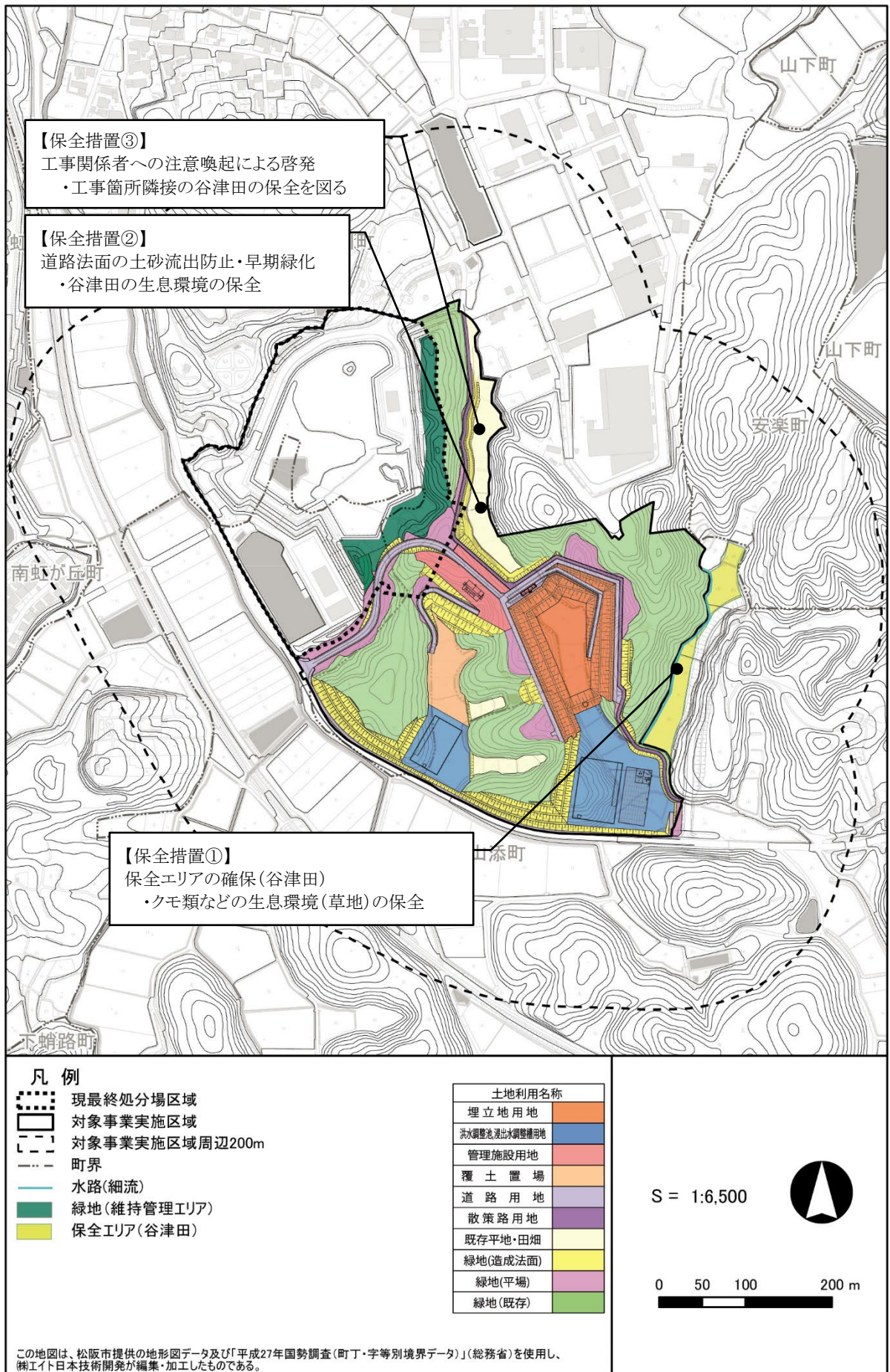


図 7-9-5.4 クモ類に係る環境保全措置の概要図